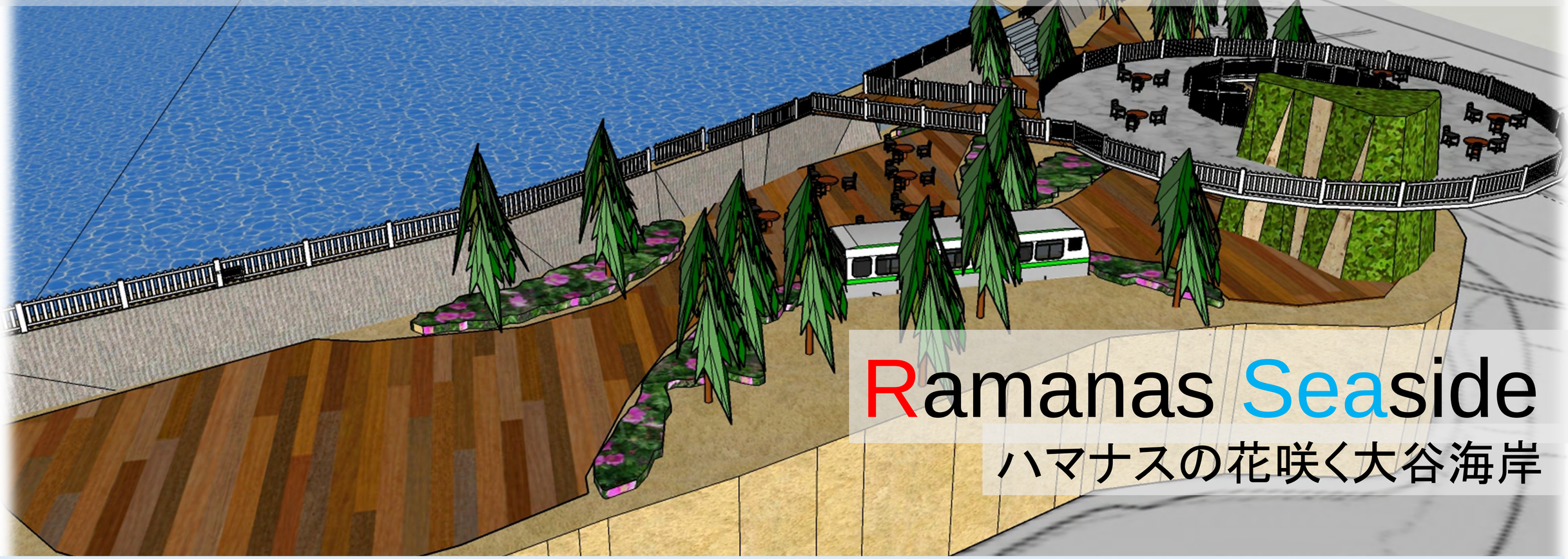
基本理念

気仙沼市大谷海岸の復興を願う”静”と”動”とを併せ持つ新しいメモリアルパーク。

『静』・・・当初計画されていた防潮堤の位置をセットバックしても守りたかった”美しい砂浜”と、震災前には大谷海岸に咲き誇っていたハマナスの景観を取り戻します。

『動』・・・地域住民に愛された気仙沼線の旧車両をカフェに変身させ、震災のレガシーとして、またシーサイドカフェテラスとして海岸を訪れた人たちに利用してもらうことを提案。



Ramanas Seaside

ハマナスの花咲く大谷海岸

対象地について

・計画対象地は宮城県気仙沼市本吉町にある「大谷海岸」の東側に設定しました。

・この場所はハマナスが咲き誇り、遠浅で静かな波が打ち寄せる砂浜でした。また、西側の部分はJRの駅が日本一近い海水浴場としても有名で、環境庁の「快水浴場百選」の一つに選ばれ、家族連れで賑わった海水浴場でした。

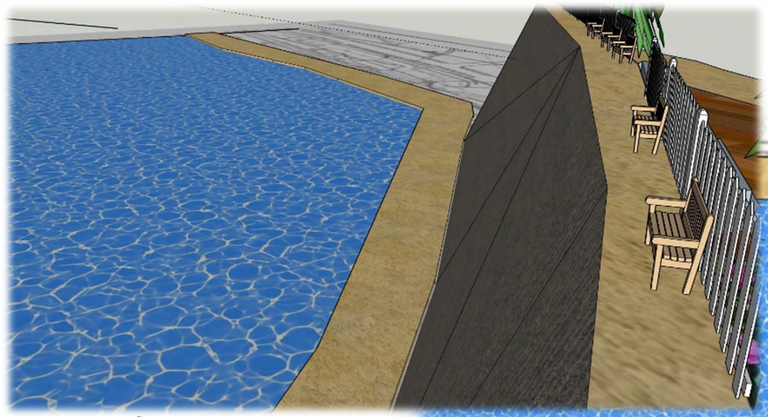
・しかし、東日本大震災で大きな被害を受け、砂浜の多くが失われてしまいました。海水浴場は現在休業中ですが、地域住民の強い要望もあり、当初砂浜を潰す計画で計画されていた防潮堤をセットバックし、砂浜を守りました。

・対象地には東日本大震災の津波の影響で残った貴重な砂丘（最高標高T.P=+14m)があり、その西側には、新たに防潮堤（ T.P=+9.8m ）が建設されています。つまりこの場所は震災前の遺構と、新たな建築物とが存在する場になっています。

「静的」なデザインと「動的」なデザイン

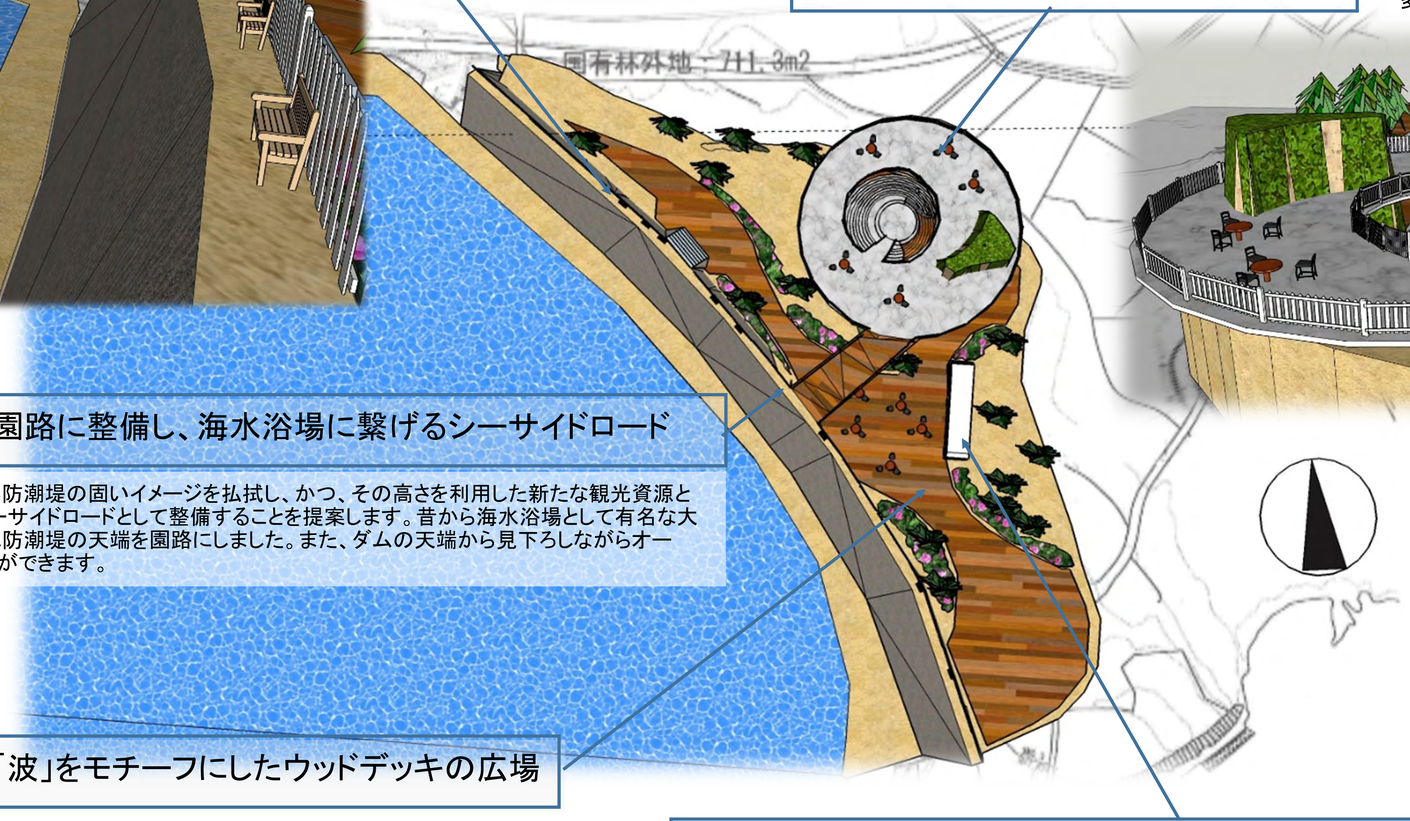
防潮堤の高さを利用したシーサイドベンチ

訪れた人々が静かに海を眺め、震災で犠牲になった多くの人々を想う場所としてもらいたいとの思いからデザインしました。



既存の砂丘を生かした展望台の設置

既存の砂丘を取り込んだ、海の景色を一望できる展望台を設置しました。また、円形の広場にはテーブルセットを設置し、多くの家族連れや友人達と楽しく憩える場にしました。



静

防潮堤の天端を園路に整備し、海水浴場に繋げるシーサイドロード

巨大な人工建造物である防潮堤の固いイメージを払拭し、かつ、その高さを利用した新たな観光資源として活用するために、シーサイドロードとして整備することを提案します。昔から海水浴場として有名な大谷海岸との接続のために防潮堤の天端を園路にしました。また、ダムの天端から見下ろしながらオーシャンビューを楽しむことができます。

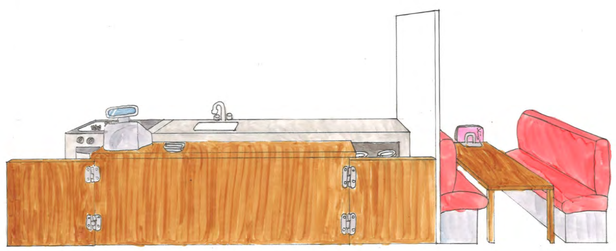
ハマナスが咲き誇る砂浜と、「波」をモチーフにしたウッドデッキの広場

本吉町の大谷海岸には、自生するハマナスの群生地として知られています。震災前には美しく咲き誇っていたハマナスの風景を取り戻したいと思い、ウッドデッキの隙間に植栽しました。また、ウッドデッキの形は「波」をモチーフにし、滑らかな曲線を多用しています。

JR気仙沼線の旧車両を用いたシーサイドカフェによる集客効果の期待

震災前まで運行していたJR気仙沼線の旧車両にはキハ110系が使用されていた。今はBRTに変わっているが、今なお住民からは復旧を願う声がある。このように、地域に愛された車両を大谷海岸に設置し、車内をカフェに改造することで、シーサイドカフェとして集客効果が期待できる。

気仙沼線　旧車両キハ110系
イメージ図



車両カフェ内部イメージ図

動